



11月初め、高梁から数キロ山奥の「吹屋」に行ってきました。当初、JR から乗り継いでバスを使い一人旅を試みたのですが、往復1本ずつのバス運行ではどうにもならず、娘の車で行く事になりました。賀陽インターから60分走った所の標高550mの山あい突如美しい赤い町並みが現れます。「吹屋」は元々平安時代から近くの銅山の鉱物や木材を成羽→高梁川の高瀬舟→玉島へと物資流通の要として発展してきた町です。江戸時代後期に**弁柄**の日本でのシェア90%を占めるまでとなり店が立ち並ぶようになりました。吹屋の特色は、商人たちの話し合いのもと基準を作り、赤く塗られた高格子窓の立ち並ぶ美しい町を作り上げたのです。今でいう市民による都市計画ですね。そもそも「**弁柄**」とは何?という事で調べてみました。ベンガラとはインドのベンガル地方でとれる防腐剤 顔料に使われる物質で江戸時代 輸入していたそうです。現代でも船底の防腐剤や鉄杭の下塗り、また輪島塗の赤、九谷焼の色付けなどに使用されています。安価で無毒なため非常によく使われています。「吹屋」近くの**笹畝**銅山の副産物として出る硫化鉄を加工 精製することにより良質な**弁柄**ができるようになったのです。精製には豊富な成羽川の水と大変な手間と人力をかけていたことが 資料館等で知る事ができます。では町歩きに行きましょう。特段 大きい店構えはないのですがひときわ目立つ「海鼠塀」の家があります。庄屋を務めた**胡屋片山家**です。入ってみると店の間に続き食事をする板間、台所とあり面白いのはこの**片山家**には2階への階段が3つある事です。訪問客の寝室用、家族用、女中用とあり、いずれも段高で急なので用心して上がって下さい。着物を着て上がり下がりしていたのかと驚くばかりです。奥には小庭に並んで仏間 表座敷があり良材をふんだんに使った 落ち着いた重厚なお部屋です。土間を抜けると土が**弁柄**色に染まった作業場や蔵 かなりの広さの男衆の部屋 そして塀の向うには大きな広場があります。おそらく**弁柄**の天日干しに使われた場所のようです。**片山家**の向かいに資料館やカフェも民家を使って点在しぶらぶら歩きも楽しいです。もう一つ必ず見ておきたいのは高台にある木造小学校です。9年前まで実際に使われていたそうで、懐かしい教室風景 机イスには実際に座れます。校舎にも非常に良い木材が使われており、「吹屋」の繁栄をうかがい知ることができます。教室の窓の鍵は昔の蒸気機関車を思い出す仕様が懐かしかったです。帰路の途中には**笹畝**坑道に立ち寄りしました。水の滴る細い坑道を歩く事10分ほどで銅山の**切羽**を見ることができます。(掘削の最先端箇所のこと)お土産には**吹屋**で今年大豊作の松茸を買いました。夕食の松茸ご飯に孫たちは 大満足(生まれて初めて食べた)でした。その他お土産にはご当地限定の唐辛子をお勧めします。寒暖差のお陰で良い唐辛子が取れるそうです。最後に共通観覧券を買くと小学校以外は全部見ることができます。

鹿田薬局

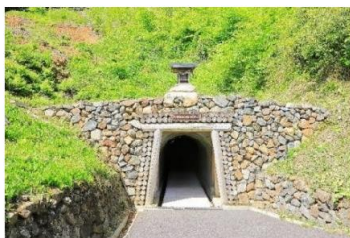
楽楽ニュース

第75号

岡山市北区厚生町  
2-7-15  
(086)226-3711



吹屋限定 紅だるま



笹畝坑道



旧吹屋小学校



吹屋ふるさと村

クリスマス  
キャンペーン

12月18日(水)~20日(金)

処方箋以外の商品を税込3,000円以上  
お買い上げて1回抽選が出来ます☆

【年末年始のお知らせ】

12月28日(土)午後~1月5日(日)まで  
お休みさせていただきます。

1月6日(月)より  
通常営業致します。

※年末最終日28日(土)は午前中のみ営業致します。

今年もご愛顧いただき  
ありがとうございました。